



患者の症状に合わせて オーダーメイドの漢方丸剤を処方

香杏舎銀座クリニック

院長：日笠穰
 住所：東京都中央区銀座2-2-4 ヒューリック西銀座第2ビル3階
 TEL：03-6228-6763
 診療時間：平日 10:00～13:00 14:00～18:00
 土曜日（隔週） 10:00～13:00
 休診日：日曜、祝日
 URL：http://www.higasa.com/index.php



「漢方は効くということを広めていきたい」と語る日笠院長(中央)

「本当に効く漢方薬をもっと広めたい」。漢方薬はあまり効かないという考えを持つ患者や医師が少なくなっている現状を憂慮し、漢方薬の研究・製造に長年携わってきた香杏舎銀座クリニックの日笠院長はそう語る。その普及のため、日笠院長は神戸市から、より発信力のある東京・銀座に拠点を移し、昨年6月に開院した。

同院は漢方内科・内科を標榜し、基本的に自費診療を行っている。保険診療を希望する患者には保険漢方エキスを院外処方として提供する。

漢方薬には湯剤（煎じ薬）、散剤、丸剤などの服用法があるが、同院では基本的に丸剤を患者に処方。その理由は生薬の有効成分を最大限に生かせるからだ。一般的に医療機関で処方されるのは、湯剤（煎じ薬）からエキス成分を抽出し製剤化したエキス製剤で、これは服用時の携帯性や利便性、保存性などにすぐれているという利点がある。しかし、生薬を煎じて抽出している間に有効成分が抜けてしまうという欠点がある。湯剤（煎じ薬）の場合は生薬を20～30分ほど煎じてその上澄み部分を使用するが、この場合も有効成分の多くが使用しない生薬の中に残ったままになってしまう。

一方、丸剤は生薬に熱を加えて抽出しないため有効成分をそのまま丸剤の中に閉じ込めて処方するので少ない量で高い効果が期待できる。また、エキス製剤と同様に携帯性や利便性、保存性にもすぐれている。

こうしたことから、日笠院長は本当に効く漢方薬は丸剤であると考え、その処方にこだわっている。しかも葛根湯など既存の漢方薬を丸剤にするのではなく、

長年研究して作り出した独自の丸剤を使用している。

診療方法は、診察・問診した後、患者の症状に合わせて生薬の配合を行い、オーダーメイドの漢方丸剤を製造して処方。その後、症状の改善が見られるかどうか再び診察している。

製造に関しては専門の薬剤師を院内に迎え、▽生薬の混合▽生薬を粉碎して粉末状にする▽球形にするために添加剤と練り合わせる▽製丸機による成形▽乾燥させる▽糖衣機による水研ぎで丸剤の表面を丸くする▽再び乾燥させる▽糖衣機による表面コーティング▽表面コーティングした丸剤を再度乾燥させる▽形状の選別—という工程を経る。

特徴的なのは、最終工程で丸剤の表面を特殊な液でコーティングして無味無臭に仕上げていること。こうすることにより、「エキス製剤や錠剤を服用するときに感じる漢方薬特有の匂いや苦味を包み隠し、飲み込む際の喉越しを滑らかにしている」。実際、服用した患者からは「大変飲みやすい」と好評だ。同院ではこれまで100種類以上の丸剤を製造し、がん疾患やアトピー性皮膚炎、狭心症、アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎などさまざまな疾患の治療に有効性を発揮してきた。

医師法では医師による製剤が認められており、「医師が患者を診ながらその場で製薬して病気を治していくのがこれからの新しい漢方の診療スタイルになる」と日笠院長はみている。そのため、医師が院内で製薬して処方する方法を広めるため、「他院から要望があれば、漢方丸剤の製造法を伝えていきたい」という。